



◀うつろ舟に願いを込めて…

北木島の伝統行事で、市の重要無形民俗文化財に指定されている「流し雛」が、4月11日に行われました。

当日は、笠岡諸島開発総合センターで、日曜朝市や流し雛の紙芝居、雛作り体験なども開催され、ツアーを含む多くの人々が参加しました。

大浦海岸で行われた雛流しでは、地元大浦地区の皆さんなども参加して、今年^{うるうどし}は閏年のため、例年より1体多い13体の紙雛を乗せたうつろ舟を流し、無病息災やそれぞれの願いをお祈りしていました。



この協賛品は、全国からの選手・監督を温かくお迎えし、「笠岡らしさ」あふれる大会にするために広報啓発や大会運営に必要な物品を募集しているもので、今回が最初の提供となりました。

▶国体を盛り上げる協賛品

笠岡東ライオンズクラブから、平成十七年開催の「晴れの国おみやま国体」と、今年の「リハーサル大会」のために、啓発用の協賛品を提供していただきました。四月八日、市長室で目録の贈呈式が行われ、市からは感謝状を贈りました。



◀笠岡の春の風物詩「鯛の浜焼き」

4月16日、笠岡の春の風物詩として知られる「鯛の浜焼き」が、今年も笠岡魚市場で始まりました。この日、ズラッと並んだ初出荷用の12匹の鯛は、笠岡諸島沖で採れた天然の真鯛。秘伝の塩水を注入した後、特製の伝八笠に包んで、一昼夜蒸されて完成します。

この鯛の浜焼きは、東京や京阪神など全国で人気があり、主に贈答品として出荷されるそうです。



▶地元の環境整備は地元の手で

神島の見崎地区では、訪れる観光客などのために、地区住民の手で観光駐車場を整備しました。

市有地を利用して、延べ約六十人がボランティアで木の伐採や生コンの打設を行い約四十台が収容できる駐車場が完成。四月一日から無料で開放されています。

自治会長の森中憲治さんは、「地区の環境は地区住民の手で良くしていきたい。」と笑顔で力強く話してくださいました。

